えんちゃん新聞

発行元
平成 31 年 1 月 発行
第 37 号
社会福祉法人　亀鶴会
偕楽園
特別養護老人ホーム偕楽園
〒874-0904
大分県別府市南荘園町 25 組
TEL ： 0977-22-2515

名前：えんちゃん
犬種：トイプードル
性別：男の子

クリスマス音楽会

12月15日（土）、多目的ホールで、アンサンブル太陽（15名）のみなさんによる『クリスマス音楽会』が開催されました。指揮者の元気な声掛けとホールに響く生演奏の迫力に会場は一気に音楽の世界へ引き込まれました。オープニングの〝ＹＭＣＡ〟の演奏では、感極まって涙する利用者の方がいらっしゃいました。〝ふるさと〟など懐かしのメドレーでは口ずさむ姿、〝ジングルベル〟など軽快なリズムの曲では、リズムに合わせて鈴を鳴らしたり手拍子をするなど、音を楽しみながら、笑顔溢れる素敵な会となりました。今後もこの様な機会をより多く提供していきたいと思います。

もみじ祭り

11月10日（土）、偕楽園グループによる『第14回偕楽園もみじ祭り』が開催されました。当日は、好天に恵まれ、たくさんのお客様にご来場頂きました。

ステージでは、よさこいや園児によるお遊戯、また、こども太鼓や歌唱、ベリーダンスなど多彩な催しが行われ、客席から演者の皆さんへ大きな拍手が贈られました。

会場では、職員による焼きそばや唐揚げ、フライドポテトなどの模擬店がオープンし、利用者の皆様にもお祭りの雰囲気を味わって頂くことができました。

また、ご多忙の中、長野別府市長、別府市のマスコットキャラクター・べっぴょんも駆けつけて、お祭りを盛り上げて下さいました。

お祭りの最後には、お楽しみ抽選会が行われ、歓声の中、楽しいお祭りは閉会となりました。

偕楽園グループ　餅つき

12月28日に偕楽園グループの年末恒例行事『餅つき』を行いました。朝早くから、薪を焼べてもち米を蒸し、煙の匂いと寒い日ならではの澄んだ空気の中で、杵と臼で餅をつく風景は、まさに季節の風物詩です。
出来上がった餅は、各事業所に鏡餅として飾り、利用者の皆様にも召し上がっていただきました。

さくらユニット（ショートステイ）紹介

さくらユニットでは、「本日の活動」（日課）を中心に季節感を意識したレクリエーションに取り組んできました。

９月の敬老会では、大正琴に合わせて歌を唄い、参加された皆様にメダルをお渡ししました。

11月は、食欲の秋ということで、たこ焼きパーティーを行いました。「おいしいなぁ。」と言いながら、たくさん召し上がる様子に職員も驚かされました。また、12月は、クリスマス会を行い、プチシュークリームを積み上げて、ツリーケーキを作りました。

ショートステイでは、現在、100歳を超えた方が2名利用されています。今年も皆様が元気で楽しく過ごされる様、様々な活動を通して、お手伝いさせていただきます。

ひまわりユニット紹介

ひまわりユニットでは、利用者様の「笑顔」をより多く見ることが出来る関わり方にユニット職員全員で配慮しています。自分たちのケアが、三大介護（入浴、排せつ、食事）に追われているだけのケアになっていないか、ユニット内で私たち職員が厳しい表情になっていないかといつも気を付けるように心がけています。重苦しい顔をした職員に利用者様から気軽に声をかけていただけるでしょうか。利用者様に気を使わせてしまうような介護になっていないか、私達は「常に笑顔」でいる様心がけています。そして、「笑顔や笑い声の絶えないユニット作り」をユニット目標の一つにあげています。毎月のユニット会議では、目標の達成、ケアの統一などを話し合っています。

また、寒い時期になりましたので、看護部と協働しながら、利用者様の健康維持に努めていきます。

～ぽかぽか陽気に誘われて～

～作品集～

ちぎり絵

えんちゃん日記

新年、明けましておめでとうございます。

日頃、ひまわりユニットで過ごしているえんちゃん。利用者の皆さんがデッキに出る時は、一緒に出て遊んでもらって喜んでいます。先日、２階の利用者さんから『えんちゃんに会いたい』と嬉しいリクエストがありました。今年も皆さんの笑顔を求めて、ユニット間を走りますので、宜しくお願い致します。

外部研修報告

●チームワーク向上研修会

介護職員　本田そのえ

9月26日に大分県総合福祉会館にて行われたチームワーク力向上研修会に参加しました。

まず、強い組織を作っていくためには、チームワークが不可欠です。チームワークとは、お互いの弱点を補い合い強みを高め合うことでスキルアップが向上しやすい環境になり、強い組織へと繋がります。チームワーク力が高い程、仕事の効率化や今まで出来なかったケアなど、さまざまなメリットが期待できます。

もう一つ、よく使われている言葉にグループという言葉があります。一見内容がチームと似ているように思われますが、グループとは共通の性質で集められた仲間。チームとは目的のために集められたプロ集団。目的意識もチームの方が強いことが分かります。チームワーク力を高めるために5つの重要な要素があります。

①チーム内での明確な目標設定を行う。
方向性を定めることによってメンバー一人ひとりが同じ目標や方向に向かって仕事に取り組むことができる。

②メンバーの役割分担をする。
チーム内における自分の存在価値を意識することができ、実感することもできる。一人ひとりの責任感やモチベーションの向上にも繋がっていく。

③チーム内の情報共有を徹底する。
『報告・連絡・相談』の3つのうち、どれが欠けてもチームの連携が上手くとることが出来ません。きちんとした情報の共有は、チームの一体感や連帯感の強化にも繋がり、チームワークのさらなる発揮にも期待できます。

④メンバー一人ひとりが自立をしている。
自身の役割を理解し責任を持って行動をしていることも重要なことです。自立をした個々が集まることは結果的にチームにさらなる相乗効果をもたらします。

⑤意欲的に行動をする。
意欲的な行動・姿勢もチームワーク向上に欠かせない大切な要素の一つです。一人ひとりが仕事に対して責任を持ち、意欲的に行動することによって、チームの士気も上がってきます。この5つがチームワーク力を高めるために重要となっています。また、メンバー同士との信頼関係もチームワークに欠かせません。互いを尊敬し合い、しっかりとした信頼関係を構築することによって、団結力やチーム全体の基礎力が向上します。

今回の研修で、一人では強い組織やチームを作っていくことは難しく、そのため多職種との連携も必要となってくることを学びました。そして、改めて情報共有の重要性を再認識し、現場で取り組む必要があると感じました。

●第1回別府市高齢者虐待防止研修会

生活相談員　阿南史紀

11月27日に別府市役所で行われた「第1回別府市高齢者虐待防止研修会」に参加しました。3部構成の研修となっており、第1～2部では、職員のストレスマネージメント、若い職員との関わり方をテーマとした内容でした。ストレスとは何か、から始まり、ストレスへの理解、対処法を学ぶことが出来ました。年代や性別は関係なく、職員が何にストレスを感じているのかを考えながら、職員関係を築いていく必要があります。また、自分自身が何にストレスを感じ、それによって、どのように変化が現れるのかを理解しておくことも大切だと学びました。

第3部の介護施設高齢者虐待防止についてでは、虐待の種類などの基礎知識を振り返り、確認することが出来ました。施設の高齢者虐待防止の取り組みとしては、組織としての課題（人手不足、職場教育の不十分さなど）を把握していく必要があります。その上で、マニュアルを整備し、実働できるものにしておくことが虐待防止につながります。

介護施設で働く職員として、日々の業務の中での言葉遣いなどの対応を注意していくと共に、〝その行動が虐待につながらないか〟、意識して取り組んでいくように努めます。

●平常時の対応と感染症発生時の拡大防止対策研修会

看護師　田巻里美

10月に「平常時の対応と感染症発生時の拡大防止対策」の研修会が開催され、インフルエンザやノロウイルス等の感染症拡大防止の研修を受けました。

施設では、高齢者の方々が生活しているため、介護・看護をするうえで、感染防止対策に対する正しい知識を、全職員が理解し、実施していかなければなりません。特に冬場（12月～3月）は、インフルエンザの流行期であるため、早めの対策が必須となりますので、研修会の内容を職員会議等で、「勉強会」として取り組めるようにしています。

施設として、11月から職員の出勤時のマスクの着用と体温測定、手指消毒を実施し、体調管理への注意喚起を図っています。施設では、インフルエンザの菌が外から入ってくることで、抵抗力のない高齢者に感染し、発症するケースが多いので、まず、「菌を持ち込まない」という観点から、その様な対策をしています。施設内においても、手指消毒（手洗い）をこまめに行い、加湿器を設置するなどの対策を行っています。万が一感染した場合には、迅速な対応で、感染拡大を防げるよう全職員で取り組んでいます。

●障害者支援のための研修会

介護職員　後藤恵梨香

9月26日、27日に大分県社会福祉介護研修センターで行われた「障害者支援のための研修会」に参加しました。

障害者総合支援法の施行や介護保険制度の改正に加え、地域共生社会の実現に向けた動きが推進されるなど制度が大きく変わる中、高齢者支援等に従事する介護福祉士にも障害者支援に関する知識と技術が求められます。支援の考え方も「ノーマライゼーション」（障害のある方もない方も平等に生活できる社会の実現）から、「インクルーシブ、インクルージョン」（すべての人に例外なく光ある社会の実現）へと変化しています。

介護福祉士の専門性として、（利用者との）「距離が近い」、「連続性がある」、「気づきの視点」が挙げられます。高齢者の支援も障害者の支援も基本的な考え方や技術は大きく変わりません。私たち介護福祉士は、今後変化していく社会の中で、自分たちの専門性をより理解し、それを発揮しながら、目の前の支援を必要としている方たちに向き合っていかなければならないと感じました。

避難訓練・救急法講習会

10月15日、夜間の火災発生を想定した避難訓練を実施しました。宿直、介護職員が参加し、初期消火から、消防署への通報、利用者の避難・誘導、そして、消火器の使い方の訓練を行いました。実際の有事の際には、夜間の少ない職員で、消防車の到着まで対応する事が求められます。

避難・誘導

消火器訓練

また、11月7日と19日の2日間にわたり、年に一度の救命法の講習会が多目的ホールで行われました。別府消防署の消防隊員と救急隊員の方々による指導のもと、胸骨圧迫（心臓マッサージ）とAEDの使用法を学びました。

心臓マッサージ

消防署職員による説明

避難誘導や心臓マッサージは、頭の中でシミュレーション出来ていても、いざ、実際にしてみると慌てたり、声が小さかったり、自分の出来ていない部分が明確になります。繰り返し訓練を行う事で、有事に備えたいと思います。

内部研修報告

月に1回、グループホームと合同で、職場内研修を行っています。

●10月のテーマ
『インフルエンザ対応・マニュアル』
看護師　田巻里美
インフルエンザ予防の基本から、発症した場合の対応について

●11月のテーマ
『ターミナルケア・マニュアル』
施設長　井上俊男
施設におけるターミナルケアの考え方から、具体的な対応について

●12月のテーマ
『福祉用具の活用について』
作業療法士　岡﨑典子
スライング・シートを使用したベット上での移動法の実技指導

職員募集

～ 私たちと一緒に働きませんか ～

●特別養護老人ホーム

◇介護職員（正）
① 7:00～16:00
② 13:00～22:00
③ 22:00～ 7:00
①～③のローテーション
・食事、介助、入浴介助、レクレーション等

◇宿直
17:30～ 8:30
・巡視及び点検、記録業務
施設犬の世話等

◇看護師（正）
① 7:00～16:00
② 9:00～18:00
③ 10:00～19:00
①～③のローテーション
・看護師免許（正・准）の何れか
・利用者の健康管理、医療機関との調整、受診対応等

◇看護師（パ）
① 7:00～11:00
・看護師免許（正・准）の何れか
・利用者の健康管理、医療機関との調整、受診対応等

●グループホーム

◇介護職員（正）
① 7:00～16:00
② 10:30～19:30
③ 16:30～ 9:30
①～③のローテーション
・食事、介助、入浴介助、レクレーション等

●ヘルパーステーション

◇ホームヘルパー
9：00～18:00 の間の２時間以上
・高齢者宅における身体介助、日常生活支援

● ご不明な点などございましたら、気軽にご連絡下さい。（担当：大山、塩田　22-2515）